

トピック まなづるの海

真鶴半島にバンドウイルカの群れ



真鶴半島南側に現れたバンドウイルカの仲間(上段 2018年10月11日撮影)
頭部と背びれが見え、左方向に移動(左上)、背びれと尾びれの付け根が見え、右方向に移動している(右上)。
[参考]水族館のバンドウイルカ(左下)

10月11日、真鶴半島南側の岸から100m足らずのところに、バンドウイルカの仲間と思われる3頭の群れがいるのをディスカバーブルースタッフが確認しました。東西方向に行ったり来たり、およそ30分間観察されました。バンドウイルカの仲間は真鶴半島での定住は確認されていませんが、三宅島や御蔵島周辺に定住する群れが一時的に真鶴半島に回遊して来ることがあり、今回もその可能性が大きいでしょう。また、これまでに真鶴周辺ではイシイルカやカマイルカが目撃されています。さらにザトウクジラなども時折現れるようです。ぼーっと沖を眺めていると、運がよければ、イルカやクジラの仲間を見られるかも知れません。

【イルカに関する豆知識】

- ・「バンドウイルカ」と「ハンドウイルカ」という呼び方がありますが、どちらも同じです。今回はより一般的な「バンドウイルカ」としました。
- ・日本周辺でよく見られるバンドウイルカの仲間には「バンドウイルカ」と「ミナミバンドウイルカ」がいます。小笠原や伊豆諸島にいたり、陸地のそばに定住するのは「ミナミバンドウイルカ」です。

真鶴の海況

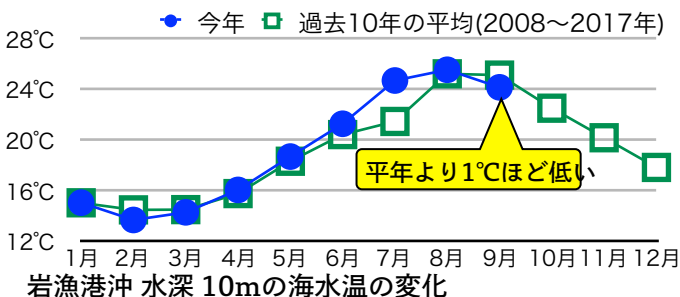
9月、徐々に秋の雰囲気

真鶴町岩漁港沖の水温は、7月は24.7℃、8月は25.6℃でしたが、9月は24.2℃と少し下がり、徐々に秋を迎えつつあります。<データ提供：横浜国立大学>



また、動物プランクトンのヤコウチュウの赤潮は、通常、春から夏に多いのですが、今年はずらしく10月にも数回発生確認されました。

ヤコウチュウの赤潮(里地)



真鶴の漁獲情報

イナダやサバ、カマスなどが水揚げ

台風シーズンも落ち着き、様々な魚が水揚げされています。魚も脂が乗る美味しい時期になってきました。イナダ、カマス、ウルメイワシなどが連日水揚げされています。ソウダガツオとサバは日によって水揚げ量に大きな差がありますが、水揚げの多い日ほど値段が安くなるかと思えば、そうとは限らないそうです。ある程度まとまった数が揃うと、宗田節(そばつゆの出汁に使用)や鯖節の原料として加工会社が大量に買いつけるため、値段が上がるそうです。大型で脂の乗ったサバは鯖節には向かないため、逆にお手頃価格で手に入ることも…。



今回、写真でご紹介するのはクロタチカマス(別名：長スミヤキ)です。似た魚でクロシビカマス(別名：スミヤキ)という魚もいますが、身がふっくらしていて食べやすいのは長スミヤキですが、骨が多いけど美味しいのはスミヤキと言われています。小田原の魚市場では、長スミヤキの方が高くつくことがあり、真鶴ではスミヤキの方が高いそうです。今回は、長スミヤキを煮付けで美味しくいただきました。<情報提供：真鶴町漁協>

真鶴の海中の様子

秋の海の中はとてにぎやか

10月は海水温・透明度も良く、ダイビングのベストシーズンの一つ。今月はダイバーに人気の生物がいろいろ出現しました。写真左はタツノオトシゴの仲間の「ハナタツ」。海藻に紛れています。中央は「サザナミヤッコ」の幼魚、右は人気者の「イロカエルアンコウ」。大きなものから小さなものまで、秋の海はとてにぎやかです。また、真鶴で出会ったダイバーのカップルの方たちが9月末に海中結婚式を挙げられました。<情報・写真提供：岩ダイビングセンター>



ハナタツ(左)、サザナミヤッコの幼魚(中)、イロカエルアンコウ(右)

11月の町立遠藤貝類博物館のイベント

- 4日(日) 町立遠藤貝類博物館ワークショップ「貝を磨いてキーホルダーを作ろう・折り紙で海の生き物をつくろう」
- 10日(土) 「豊漁豊作祭」(真鶴港岸壁広場)での生物展示
- 11日(日) 10日10時~18時半、11日9時半~15時
- 25日(日) 真鶴自然こどもクラブ「海の研究をたいけんしよう」
定員に達したため、申し込み終了

まなづる 海の月報は、町立遠藤貝類博物館 HPからダウンロードができます。プリントしていただいたの掲示・配布歓迎です。